

# 秋田の土地改良



**CONTENT 1** 秋田県土地改良区統合整備基本計画改訂  
土地改良区合併推進リーダー育成研修会

**CONTENT 2** 特集コラム  
生産調整と土地改良事業  
との関係

2014.3  
VOL.479

第479号平成26年 3月25日

# 秋田県土地改良区統合整備 基本計画が改訂される!!



秋田県では、平成26年度から平成30年度を計画期間とする「秋田県土地改良区統合整備基本計画(平成25年度改訂版)」を策定し、今後の県内土地改良区の統合整備に関する方針等を決定した。

県が定める統合整備基本計画は、平成3年度に当初計画を策定し、その後改訂を重ねながら、県内土地改良区の統合整備方針について示してきたものである。

計画案は、秋田県土地改良区統合整備検討委員会において協議を重ねており、3月14日(金)開催された第6回委員会で最終案がまとめられた。

今回の「統合整備基本計画」改訂にあたっては、県担当者、土地改良区役職員、市町村担当者、

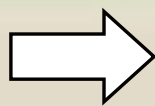
秋田県土地改良事業団体連合会担当者等が地域ごとに集まって意見交換を行う「土地改良区地区別意見交換会」が平成24年度から25年度にわたって開催されており、ここでとりまとめられた「地域としての統合整備の方針」、「土地改良区の将来像」が反映された計画となっている。

そのため、目標年度を定めた具体的な地区の統合整備だけでなく、将来のあるべき土地改良区の姿や、次回以降の統合整備を検討していく枠組みなどについても記載されたものとなっており、今後はこの計画に沿って県内土地改良区の統合整備を推進していくこととなる。

各土地改良区でも計画の趣旨をふまえ、統合整備による運営基盤の強化を図っていただきたい。

「土地改良区数」  
**110**

(平成26年4月1日)



目標「土地改良区数」  
**73**

(平成31年3月31日)

## 目次

### CONTENTS

秋田県土地改良区統合整備基本計画改訂	2	各種会議・委員会等の開催、会員だより	11
秋田県土地改良区統合整備推進協議会	3	イメージソング「水土里ネットのテーマ」完成	12
平成25年度土地改良区合併推進リーダー育成研修会	3	特集：地域からの情報発信	13
農業水利施設内の「ゴミ」問題⑩	4	水土里レポーター・後藤展史	
農業農村整備事業広報大賞「優秀賞」	5	特集：我が水土里ネット	14
第55回全国土地改良功労者表彰	5	内越土地改良区・堀 芳直	
生産調整と土地改良事業との関係 土地改良新聞1月25日付記事	6	野山の花	14
水土総合強化推進事業技術実践研修	8	特集：随想 新城川土地改良区・澤畑真知子	15
「あきた体験農園」年間活動報告	9	編集後記	15
土地連OB会平成26年度定例会・連合会日誌	10	写真コンクール入賞作品決定	16

# 「秋田県土地改良区統合整備推進協議会」開催！

水土里ネット秋田の委員会組織である平成25年度「秋田県土地改良区統合整備推進協議会」が3月10日に本会会議室で開催された。この協議会は、農業農村整備事業の的確な実施や土地改良施設の適切な管理を図るためには、土地改良区統合整備による組織運営及び財政基盤の強化が不可欠であることから、土地連としての支援体制等を協議することを目的としている。

始めに、本協議会高員委員長(水土里ネット秋田会長)から、「土地改良区が役割を適切に果たしていくためには、統合による組織基盤の強化、維持管理体制



の再編整備等を通じての体制強化を図り、その機能と役割を効率的・効果的に発揮することが重要である」と挨拶があった。議事では「平成25年度事業報告」と「平成26年度事業計画(案)」が承認され、その後、秋田県から次期統合整備の基本計画が策定されるなどの情報提供があった。意見交換では、様々な合併阻害要因とその解決方法について議論された。



の再編整備等を通じての体制強化を図り、その機能と役割を効率的・効果的に発揮することが重要である」と挨拶があった。議事では「平成25年度事業報告」と「平成26年度事業計画(案)」が承認され、その後、秋田県から次期統合整備の基本計画が策定されるなどの情報提供があった。意見交換では、様々な合併阻害要因とその解決方法について議論された。

平成25年度

## 土地改良区合併推進リーダー育成研修会が開催される



全国土地改良事業団体連合会主催で、全国を2ブロックに分けて開催している「土地改良区合併推進リーダー育成研修会」の今年度第2回目となる研修会が、2月13～14日まで、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）で開催され、各地の土地改良区役職員や連合会職員など55名が参加した。

開会にあたり、全国土地改良事業団体連合会中央換地センター浦山所長より、「本研修会は以前、国の補助事業として開催されていたが、平成23年度から公募となり全国土地改良事業団体連合会が実施している。市町村合併により平成20年度に全国で3,200余りあった市町村が1,719に縮小され、土地改良区の合併も新市町単位での1土地改良区が望ましい」と挨拶された。

研修会では、農業農村情勢・農政の展開方向、関係法規及び土地改良区組織運営関係について農林水産省と全国土地改良事業団体連合会から、それぞれ講義があり、岩手県の一関東部土地改良区千田事務局次長からは、土地改良区合併までの苦労話が事例として発表された。

最後に、全体討論会が行われ、合併の効果或いは合併前に問題となった事項とその解決方法について討論された。

# あなたは…どう思う？「ゴミ」問題

～水土里ネット若手女性職員に聞く～



秋田県能代地区土地改良区  
赤塚 祐佳 さん

以前は粗大ゴミ等、農業水利施設の管理に支障をきたすようなゴミが捨てられていました。しかし、立て看板の設置等による啓発活動により、現在は減少してきています。農業水利施設は洪水防止や、美しい景観の形成等、多面的な役割を担っています。農業に携わる方だけでなく、地域の方々の生活に欠かせない機能を有しているため、1人1人のゴミを無くそうという日々の意識が、農業水利施設の機能を守ることに繋がると考えます。



由利本荘市子吉土地改良区  
佐藤 雪絵 さん

農業水利施設内のゴミは管轄の水土里ネットに対応しなければならず、撤去の経費や人件費は賦課金として組合員に負担を強いる事になります。しかし、実際にゴミを投棄しているのは、農業に従事する組合員ではなく、意識の低い地元住人だと思います。いくら水土里ネットが呼びかけても、結局は水土里ネットという組織も知らない人には届かないと思うので、県や市などの行政と一体となって取り組む必要があると思います。



平鹿町土地改良区  
加藤 円 さん

農業水利施設にゴミが詰まれば、水の流れが悪くなり田んぼへの影響があるだろうし、川や水路に住む生物にも悪影響を及ぼしてしまうので、土地改良区としてはゴミを川や水路に捨てないように広報誌等で呼びかけることが大切だと思います。

また、国の農地・水保全管理活動でもゴミのポイ捨て防止看板設置や清掃活動を行っている地区があるので、地域の農地・水活動組織と土地改良区が連携して呼びかけていくことでゴミ削減につながるのではないのでしょうか。



羽後町土地改良区  
金子友香理 さん

水土里ネット秋田の会報誌やホームページ及びメディアで情報発信が行われていますが、地域の方々に実際に目で見て現状を知って頂く機会を設けたらいいのではないかと思います。

また、各学校でも環境美化活動が行われていると思うので、農業水利施設内のゴミ処理もその中に取り入れて欲しいと思います。ゴミ問題は簡単に解決するものではありませんが、放っておくとゴミは増える一方なので、今後もこの問題に対して真剣に取り組んでいくべきです。

ご意見をいただきました、水土里ネットの若手女性職員の皆さん、  
お忙しいところありがとうございました。

お知らせ  
(告知)

水土里ネット秋田からのお願い！

5月30日は「ゴミゼロ」の日

水土里ネットが一丸となり、農業水利施設内の「ゴミ」をなくしましょう。

～日本一綺麗な水で安全・安心な農産物を生産～